

「指定河川洪水予報」のフォーマット変更等に伴う辞書・スキーマの変更、
及び「全般スモッグ気象情報」の XML 化対象電文への追加等について

「指定河川洪水予報」のフォーマット変更等に伴い辞書、スキーマを変更します。また、「全般スモッグ気象情報」を対象電文に追加します。

その他、前回（平成 22 年 5 月 14 日）の更新後に判明した誤りの修正、及びサンプル電文の追加・修正を行います。

変更内容については以下の通り。

1 辞書・スキーマの修正点について

(1) 指定河川洪水予報

(ア) 「はん濫発生情報（はん濫水の予報）」に関連し、「はん濫水の到達予想時刻」「想定最大浸水深」及び「浸水最深時刻」を記述するために以下の変更を行う。

- ① 気象分野辞書の親要素“type. Property”に浸水についての諸要素を表す子要素“FloodAssumptionTable”（基底型 type. FloodAssumptionTable）を追加。
- ② 気象分野辞書の親要素“type. FloodAssumptionTable”に浸水区域を表す子要素“FloodAssumptionPart”（基底型 type. FloodAssumptionPart）を追加。
- ③ 気象分野辞書の親要素“type. FloodAssumptionPart”で使用するために、基本要素辞書の“type. DateTime”に属性“description”を追加し、基本要素辞書に浸水の深さを表す“FloodDepth”（基底型 type. FloodDepth）を追加。

(イ) 水位・流量の現況及び予測を表すために、基本要素辞書の“type. WaterLevel”（水位）に属性“refID”（時系列での参照番号）を追加し、基本要素辞書の“type. Discharge”（流量）に属性“refID”（時系列での参照番号）を追加。

(ウ) はん濫により想定される浸水想定区域等を気象分野辞書の親要素“type. Area”の子要素“SubCityList”で記述するが、対応するコードがないため、気象分野辞書の親要素“type. Area”の子要素“SubCityList”の解説を「xs:list 型で記述。」から「xs:list 型で記述。ただし、指定河川洪水予報では既存の細分区によらずに浸水想定地区を記述し、SubCityCodeList は使用しない。」に変更。

(エ) 水位観測所は、異なる河川で同じ観測所番号が使用されているため、予報区域コードと観測所番号を組み合わせで特定することとし、予報区域コード（12 桁）＋観測所番号（5 桁）の 17 桁コードを用いる。そのため、気象分野辞書の親要素“type. Area”の子要素“Code”（xs:string）のサイズを 10 から 20 へ、気象分野辞書の親要素“type. Station”の子要素“Code”（xs:string）のサイズを 10 から 20 に変更。

(オ) 気象庁で拡張した市町村コードを取り扱えるように、気象分野辞書の親要素 "type. Area" の子要素 "CityCode" のサイズを 5 から 7 へ変更し、解説を「5 桁の市町村コード」から「5 桁の市町村コード又は末尾に'00'をつけた 7 桁のコード」に変更。さらに、親要素 "type. Area" の子要素 "CityCodeList" の解説を「5 桁の市町村コードを xs:list 型で記述」から「5 桁の市町村コード又は末尾に'00'をつけた 7 桁のコードを xs:list 型で記述」に変更。

(カ) 気象分野辞書の親要素 "type. HydrometricStationPart" の子要素 "Name"、"Code" 及び "Location" について、"Area" (基底型 type. Area) タグを用いた記述に変更。

(キ) 気象庁防災情報 XML の辞書に以下の「とりうる値」を追加。

- ・ ヘッダ部辞書の "type. Information" の type 属性に "指定河川洪水予報 (予報区域)"、"指定河川洪水予報 (河川)"、"指定河川洪水予報 (府県予報区等)" を追加。
- ・ ヘッダ部辞書の "type. areas" の codeType 属性に "指定河川洪水予報 (予報区域)" を追加。
- ・ ヘッダ部辞書の親要素 "type. area" の子要素 "Code" にコード "code. AreaFloodForecast" と解説を追加。
- ・ 基本要素辞書の "type. Precipitation" の type 属性に "流域平均雨量" を追加。
- ・ 基本要素辞書の "type. WaterLevel" の condition 属性に "正常"、"上昇"、"下降"、"一定"、"欠測"、"未計算"、"有効"、"無効" を追加。
- ・ 基本要素辞書の "type. Discharge" の condition 属性に "正常"、"上昇"、"下降"、"一定"、"欠測"、"未計算"、"有効"、"無効" を追加。
- ・ 気象分野辞書の "type. MeteorologicalInfos" の type 属性に "雨量情報"、"水位・流量情報"、"はん濫水の子報" を追加。
- ・ 気象分野辞書の親要素 "type. Kind" の子要素 "Name" に "浸水想定地区 (はん濫発生情報)"、"雨量"、"水位"、"はん濫水"、"流量" を追加、子要素 "Status" に "対象地域" を追加。
- ・ 気象分野辞書の親要素 "type. Property" の子要素 "Type" に "雨量"、"はん濫水"、"浸水想定地区"、"浸水想定地区 (はん濫発生情報)" を追加。

(ク) 気象分野辞書の親要素 "type. Area" の子要素 "PrefectureCode" の解説を "5 桁の市町村コード" から "5 桁の都道府県コード" へ、親要素 "type. Property" の子要素 "DischargePart" の解説を "天候についての諸要素を表す" から "流量についての諸要素を示す" へそれぞれ修正。

(2) 記録的大雨短時間情報

(ア) 記録的短時間大雨情報の対象地域を府県予報区等单位で記述するため、サンプルファイルで示していたフォーマットの "Head/Headline/Information/Item" におい

て、子要素"Kind"及び"Areas"を追加利用し、さらに"Body/Warning/Item"において、子要素"Kind"も追加利用した。

- (イ) (ア)の変更に伴い気象庁防災情報 XML の辞書に以下の「とりうる値」を追加した。
- ・基本要素辞書の親要素" type.Information" の type 属性に"記録的短時間大雨情報(発表細分)"を追加。
 - ・気象分野辞書の親要素" type.Kind" の子要素"Name"に"記録的短時間大雨情報"を追加。
- (ウ) (ア)の変更に伴い気象庁防災情報 XML の気象分野辞書の親要素" type.Kind" の子要素"Name"のとりうる値"なし"の解説を"土砂災害警戒情報で利用し、警戒レベルがなしを示す"から"土砂災害警戒情報で利用する場合は警戒レベルがなしを示し、記録的短時間大雨情報及び竜巻注意情報で利用する場合は対象ではないことを示す。"へ変更。
- 同様に気象分野辞書の親要素" type.Kind" の子要素"Status"のとりうる値"なし"の解説を"土砂災害警戒情報の警戒レベルが前回も今回もなしのことを示す"から"土砂災害警戒情報で利用する場合は、警戒レベルが前回も今回もなしのことを示し、記録的短時間大雨情報及び竜巻注意情報で利用する場合は対象ではないことを示す。"へ変更。

(3) その他の辞書の修正点

- (ア) 気象分野辞書の親要素" type.ClimateProbabilityValuesPart" の気温、降水量、日照時間等の確率を表す、子要素" jmx_eb:ClimateProbabilityValues" の基底型を、" jmx_eb: type. ProbabilityValues" から" jmx_eb: type. ClimateProbabilityValues" に修正。
- (イ) 地震・津波分野辞書の親要素" type.AftershockItem" の余震確率を表す、子要素" jmx_eb:ProbabilityOfAftershock" の基底型を" jmx_eb:ProbabilityOfAftershock" から" jmx_eb: type. ProbabilityOfAftershock" に修正。

(4) バージョンについて

今回の修正に際して、スキーマのバージョン管理上は jmx_eb、及び jmx_mete のメジャーバージョンアップ1と位置づけ、具体的には以下の通りの対応とします。

- ・ jmx_eb、jmx_mete のバージョンを"1.1"に変更します。
- ・ jmx_ib のバージョンを"1.0c"に変更します。
- ・ そのほかのスキーマはバージョンアップせず、"1.0b"のままとします。
- ・ 名前空間の変更は行いません。
- ・ XML スキーマ上ではルート要素の注釈("<xs:annotation><xs:documentation>"以下)において、バージョン情報の提供をするのみとします。
- ・ 指定河川洪水予報以外の XML インスタンス上では今回の対応に伴うバージョン情報の変更はありません。指定河川洪水予報では、1.1_0 とします。

(5) バージョンアップによる影響について

今回のバージョンアップによる影響は、指定河川洪水予報 XML の利用者のみとなり、

指定河川洪水予報 XML を利用しない場合は、特段の対応は必要ありません。

2 「全般スモッグ気象情報」について

今回の更新にて、気象庁防災情報 XML 化対象電文として「全般スモッグ情報」を追加します。追加による辞書・スキーマ等の変更は発生しません。

3 サンプル電文の修正・追加提供

今回の辞書等の変更により、修正される電文の差し替えと、新たにサンプル電文の追加提供を行います。なお、サンプル電文の提供に際しては、差し替え対象と平成 22 年 5 月 14 日付で提供した電文に対する対応を明確化するため、これまで提供したものも含めて再度提供いたします。

提供するサンプルファイルの一覧をサンプル整理表にまとめます。今回変更があるファイルについては、「更新状況」列に状況を記載しています。記述の無いものについては、前回提供のものと同じであり、修正等を行っていません。

4 その他の修正

項番 1～3 の追加・修正内容に合わせるため、辞書・スキーマバージョン管理表、コード管理表一式、サンプルスタイルシート整理表及び管理部・ヘッダ部の運用整理表を更新します。

5 XML スキーマとサンプル電文の検証について

今回の修正・追加提供に際しては、気象庁により「Multi Schema Validator Ver. 20080213」と「AltovaXML 2010 (AltovaXML Version 2010)」による検証作業を実施致し、良好であることを確認しました。